

京丹後市議会議長 様



会派名 政友会

代表者名 由 利 敏 雄

(電話)

政務活動費実績報告書

平成29年6月6日付け 9総務 第627号により交付決定のあった政務活動費に係る下記の実施期間における調査研究その他の活動が完了したので、京丹後市議会政務活動費の交付に関する条例施行規則第5条第1項の規定により、下記のとおりその実績を報告します。

記

- 1 政務活動費の額 387,211 円（期間 : 上半期 ・ 下半期）
- 2 政務活動費の対象とした経費の内訳

| 区 分 | 金 額 | 主な活動 |
|--------|-------------|---|
| 調査研究費 | 355,975 円 ✓ | 【北海道 7月10日～12日】 ・スキー場を活用しての地域活性化及び観光振興に生かすための調査・研修 ・有害鳥獣の捕獲個体処理についての現状と運営体制、施設の調査・研修 ・生涯学習の拠点施設としての図書館の在り方についての調査・研修 |
| 研修費 | 31,236 円 ✓ | 【東京 5月18日～19日】 ・これからの学びに向けた教育 IT 化、及び教育情報化のための最新の機器展示視察及び講座受講による研修 |
| 広報費 | | |
| 広聴費 | | |
| 要請・陳情費 | | |
| 合 計 | 387,211 円 ✓ | |

3 調査研究その他の活動の経過

| 区 分 | 金額（円） |
|---------------|-------------|
| 交付決定済額 (a) | 870,000 円 ✓ |
| 上半期交付確定額 (b) | |
| 差引額 (a) - (b) | |

※ 添付書類

- (1) 調査研究その他の活動の実施状況及び成果を確認できる書類
- (2) 政務活動費の支出額及びその使途に関する書類
- (3) 政務活動費の支出に係る領収証の原本（確認後に返付します。）

会派会議要項

平成 29 年 5 月 24 日 (水) 午後 3 時

1 代表挨拶

2 視察について

(1) 日 時 平成 29 年 7 月 10 日 (月) ～7 月 12 日 (水)

(2) 視察場所

●北海道紋別郡雄武町 産業振興課 ☎0158-84-2121

担当者 雄武町議会事務局 藤川事務局長 (午前 9 時～11 時)

●北海道紋別郡滝上町 住民生活課 ☎0158-29-2111

担当者 滝上町議会事務局 小松係長(午後 1 時 30 分から 3 時 30 分)

●12 日の午前中の視察

札幌中央図書館施設見学、夕張市の現状、その他

(3) 視察内容

『有害鳥獣の捕獲個体処理について』

現状と運営体制、関連施設の見学

(4) 今後の検討内容

- ・事前研修 (次回の会派会議 事前質問も確認)
- ・日程の最終決定 (北海道紋別郡の視察は 11 日の午前と午後の予定)
- ・任務分担の確認

由利 (日程確認及び渉外)

水野 (政務活動に係る申請・報告書)

和田 (研修)

【視察当日の任務分担】

- ・挨拶、渉外 (由利)
- ・挨拶 (藤田)
- ・会計、その他 (和田)
- ・写真 (平井)

(5) 事前研修

- ・京丹後市の鳥獣被害の現状と課題 (和田)
- ・雄武町 滝上町の取組み (由利)
- ・12 日の午前中の研修 (水野)

※事前の質問についても確認 (6 月上旬には視察先に)

3 その他

(1) 6 月議会の一般質問の確認 ①平井 ②和田 ③藤田 ④由利 ⑤水野

(2) 文教厚生常任委員会の件 会派の意見をまとめる

(3) 水野議員の視察の件 研修報告会を実施

(4) 会派会議の確認

・6 月議会の議運の報告 6 月 1 日 (木) 事前研修日に報告

・視察の事前研修 6 月 1 日 (木) 午前 9 時

(5) その他

会派研修会

平成 29 年 6 月 1 日（木）午前 9 時

- 1 議会運営委員会の報告（5 月 29 日）議会運営日程参照
 - ※5 月 29 日に開催された会派代表者会議と内容が重複しているので会派代表者会議の内容は省略
 - (1) 議案概要の説明（別紙事務局案で説明）
 - (2) 追加予定議案（4 件 議会運営委員会の案）
 - (3) 議事運営について
 - ・陳情の取り扱いについて（付託は 3 件）陳情 5 号は陳情者の希望
 - ・一般質問の確認
 - ・補正予算の審査（緊急予算、エコエネ、大宮診療所の修繕等）
6 月 5 日に提案（表決）6 月 8 日を予備日 6 月 19 日には採択に
 - ・議員提出議案（議会活性化特別委員会の設置 議会最終日に決定）
目的・・議会基本条例の検証の中で（市民と議会の懇談会）
委員・・会派から 1 名 無会派 1 名 計 7 名
※12 月議会から実施出来る方向で検討
 - (4) 議事日程（別紙事務局案参照）
 - ・議席の一部変更（別紙） 広報委員会の選任（別紙）
 - ・条例の改正については、上位法の改正に伴うもの、それに伴う市の関連や整合性を図るもの
 - ・常任委員会に付託する議案
 - (5) 会期及び審議予定（別紙）
 - (6) 議員全員協議会
 - ・エコエネルギーセンターの総括、過疎計画 放映予定
 - ※発酵液の漏出については、補正で質疑するが、関連する場合は許可
- 2 6 月議会議論・確認すべき議案
- 3 視察の事前研修
 - (1) 視察目的
 - イノシシ、シカの捕獲頭数の増加に伴い、捕獲個体の処理方法が問題となっている。現行の補助制度（食肉不適切等個体埋設処分事業）の見直しを含め個体処理方法を検討するために先進地視察を行う。
 - 有害鳥獣の捕獲個体処理についての現状と運営体制、関連施設の見学
木質チップやおかくずを用いて微生物を活用した有機物の分解処理。
微生物分解に時間のかかる骨、ひづめ、毛、角等は埋め立て等により処分。施設見学、運営体制の視察。

(2) 本市の現状と課題（和田）

- ・鳥獣被害の現状（特にシカによるもの）
- ・本市の対策と課題

(3) 北海道紋別郡雄武町、滝上町の現状と取り組み（別紙）

- ・雄武町（おうむ）鳥獣被害防止計画
- ・滝上町（たきのうえ）エゾシカ対策
- ・「微生物によるエゾシカの減量化処理手引書」

北海道環境生活部環境局エゾシカ対策課（平成 26 年 5 月）

(4) 質問事項の確認（本市の現状を踏まえ、個体処理方法に生かす）

- ・微生物による減量化の方法
- ・減量化処理の留意点
- ・その他

(5) 12 日の視察、11 日の宿泊地の最終確認

4 視察報告（水野）

別紙資料

5 その他

(1) 6 月議会の一般質問の確認

- 平井議員・・・
- 和田議員・・・
- 藤田議員・・・
- 由利議員・・・
- 水野議員・・・

(2) 次回の会派会議 6 月 日 () 時間 場所

- ・本会議最終日に向けての確認
- ・視察の最終打ち合わせ

(別紙)

これからの学びに向けた教育 IT 化、及び教育情報化のための最新
の機器展示視察・調査、及び講座受講による研修概要

研 修 先 東京ビッグサイト

研 修 者 水野 孝典 (1名)

案内同行者 瀧野 貴司氏 (VITA ヴィータ代表)

研修内容

1 EXPO の概要

今回参加した第8回教育 IT ソリューション EXPO 特設「学び NEXT みらいの学びゾーン」には、全国90社が出展参加、また教育 IT ソリューション EXPO 全体では800社が出展参加する国内最大の教育 IT の EXPO。

教育関連の最新の IT 機器が展示され、デモンストレーションや各企業が誇る教材や教育コンテンツのデモ、またセキュリティモデルやeラーニングのパフォーマンスが各ブースで展開されていた。

中には1秒当たり両面10枚のスキャニングをこなす機器や、受付案内ロボットのパフォーマンス、3Dプリンター実演、最新の電子黒板や習字、お絵かき電子黒板、テレビ会議システム、各社が競うアクティブラーニングのパフォーマンスなど、会場狭しと展示が繰り広げられ、参加した18日、19日も終日、見学者でごった返していた。

2 研修内容

当エキスポで行われた各種セミナーのうち、有料講座2講座を受講した。

(1) 5月18日(木) M2「これならできる小学校のプログラミング ～プログラミングで学ぶ教科の学習～」

講師：㈱情報通信総合研究所 特別研究員 平井 聡一郎 氏

講義概要

2020年に次期学習指導要領が完全実施され、2018年からは小中学校で移行措置に入る。つまり移行措置までにもう10ヶ月しかない時点に来ている。

講義では、次期学習指導要領の実施に向けた授業改革の視点から、新しい

学びの生れる授業スタイルの構築、主体的・対話的・深い学びをプログラミングで実現することの意義、そしてそのゴールはプレゼンテーション能力の獲得にあること。

しかし、なぜプログラミング教育を行う必要があるのか。2013年の第11回産業競争力会議世界最先端IT国家創造宣言で「プログラミング必修化の検討」が明記されたことが発端。

従来、高校では「情報」「情報と科学」の2教科において選択履修が行われ、約2割の高校生が履修。また、中学校では「技術・家庭科」「技術分野」で、プログラムによる計測制御が10時間程度必修とされていた。小学校では考慮されていなかった。

今後は、高校ではすべての生徒が履修する、共通必修科目となる。中学校ではプログラムに関する内容が倍増し、計測制御+コンテンツに関するプログラミング履修が必須となる。小学校におけるプログラミングは、プログラミング的思考の養成、各教科の指導内容を学びながら主体的・対話的で深い学びを実現すること。

これまで教わったこともなければ(児童生徒)、教えたこともない(教員)領域。しかし、やらなくてはならない、待ったなしの新しい学習。

まず、先生が触ってみる、先生が遊んでみる、先生が実感する。やれそうな教科を探す、授業で使ってみる、課題はみんなで考える。評価から情報活用能力の育成。

Make a difference から Change the World へ

(2) 5月19日(金) M3「教育ビッグデータが導く新たな学習支援 ～「技術と人の共生」による豊かな学習支援を目指して～」

講師：早稲田大学 人間科学術院教授 松居 辰則 氏

講義概要

教育ビッグデータで何ができるのか？

Learning Analytics(LA)と Educational Data Mining(EDM)

LAの研究動向、LAの何が新しいのか、LAの何が難しいのか、LAを促進するための課題。

学習・教育における人工知能研究

技術との共生による学習・教育支援を目指して

知的メンタリングシステム (IMS; Intelligent Mentoring System)

Learning Analytics

※ 教育ビッグデータとは、学びに関連する様々な学習履歴や行動履歴のこと。これらの教育ビッグデータを収集し、可視化・分析することで、学

習の評価や様々な予測、成績と学習行動の関係性を明らかにしたり、問題点を導き出すのがラーニング・アナリティクス。

教育ビッグデータに寄せられる期待は、学習過程に関するデータの蓄積、学習分析（学習過程に関するフィードバック、適応的学習、学習内容の個別化、学習過程に関する情報を用いた学習評価、学習成果の予測）。

LA に関する研究動向は、国際的には EDM(2008～)、LAK(2011～)、ICCE, KDD Cup2015 などの流れ。国内学会では、人口知能学会、電子情報通信学会、情報処理学会、教育工学会、教育システム情報学会等での発表が増加している。

LA の何が新しいのかと言えば、従来は学習過程の記録方法が限定的であり、学習結果の分析が中心で、学習過程の分析は困難であった。ところが、近年、ICT の進展により学習や教育に関する膨大なデータが様々な形態や粒度で取得・蓄積できるようになった。

LA を促進するための課題としては、理論・技術のさらなる展開、LA に関わる人材の育成、知見の共有（コミュニティ形成、データクラウド）、データの扱い（関連法の整備への期待）、温故知新など。

人口知能研究における学習・教育支援研究。

「学習」は人間の最も知的な活動の一つ。「学習」は「知能」の代表的な機能。「学習」は認知科学、心理学との学際性を有する。「人工知能」研究も心理学、認知科学との学際性を有する。また、「人口知能」研究における「学習・教育」研究の歴史は長い。教育支援から学習支援、そしてメンタリングへ！

人工知能研究の究極の目的とは、人間の本質を知ることである！

3 所見

全国から学校・教育関係者が 35,000 人来場する教育 IT ソリューション EXPO。広告の数字に違わず、5月18日、19日両日も会場の東京ビッグサイト西ホールはあふれんばかりの人だかりで、展示通路を歩き来するのも自由にならぬほどであった。小・中・高校、教育委員会、大学、塾・予備校・専門学校、各種スクール、学校専門卸などの関係者が、新しい学びの体験と選定と導入の検討を行い、STEM（科学、技術、工学、数学）教育、プログラミング教育、Fab Learning（ものづくりを通じた学習手法）、EdTech（エドテック＝教育＋テクノロジー）、ゲーミフィケーション（社会的な活動にゲームが役立つこと）、AI（人工知能）、ロボットなどからの出展社が 800 社参加する、まさに国内最大の教育 IT ソリューション。問題や課題の解決方法や方途を見出すための絶好の機会である。

ちょうど 2020 年から次期学習指導要領が完全実施され、2018 年からは小中学校で移行措置に入る。つまり移行措置までにもう 10 ヶ月しかない時点に来ている現在、今後の京丹後市における教育情報化をはじめとする教育環境整備や指導体制、その準備状況を検証するため、有益な機会となった。

かくいう小生自身、教育 IT の現状や課題については十分承知していないところであるため、今回の視察研修、展示見聞、また 2 講座の受講を通して、眼から鱗が落ちる思いであった。出展社の機器展示を見る限りでは、教育を支えてきた従来の事務機器や事務用品は、はるかに高度な電子化へと革新されており、驚愕のものであった。

また、e ラーニングなどの分野でも、学習方法や手段が新しい学習指導要領を踏まえて一新されており、教育界の流れを先取りした自治体では、教育設備、教育方法、教育方針、教育理念において、すでに追いつけないほど先を走っていることが伺えた。

この教育 IT ソリューション EXPO (関西第 1 回) は、今秋 11 月 15 日から 17 日にわたり 3 日間インテックス大阪でも開催されることになっている。この機会に是非、本市からも教育委員会・学校関係者、そして行政関係者も参加して、教育情報化の流れを把握して、新しい学習指導要領の全面実施に備えてもらいたいものである。